

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイ
メント・サービスのリモート・プロセス・サー
バー

8.4

インストール手順



注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[35 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

<!--製品情報-->

本書は、IBM® SPSS® コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのバージョン 8 リリース 4 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 2000, 2022.

目次

第 1 章概要.....	1
第 2 章インストール要件.....	3
第 3 章インストール・ファイル.....	5
第 4 章 Installation Manager 入門.....	7
リポジトリの設定.....	8
ウィザード・モードでのリポジトリ設定の実行.....	8
コンソール・モードでのリポジトリ設定の実行.....	9
Passport Advantage の設定.....	10
ウィザード・モードでの Passport Advantage 設定の実行.....	10
コンソール・モードでの Passport Advantage 設定の実行.....	11
第 5 章 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・ プロセス・サーバー のインストール.....	13
ウィザード・モードでのインストール.....	13
コンソール・モードでのインストール.....	15
応答ファイルを使用したサイレント・インストール.....	18
第 6 章セキュア IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリ モート・プロセス・サーバー 通信のための SSL.....	21
IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー の SSL の設定.....	22
第 7 章 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・ プロセス・サーバー の始動および停止.....	25
第 8 章 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・ プロセス・サーバー に対するアクセス権限の構成.....	27
第 9 章 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ ー 接続資格情報の変更.....	29
第 10 章アンインストール IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サ ービスのリモート・プロセス・サーバー.....	31
ウィザード・モードを使用したアンインストール.....	31
コンソール・モードを使用したアンインストール.....	32
第 11 章推奨されない機能.....	33
特記事項.....	35
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項.....	36
商標.....	37
索引.....	39

第 1 章 概要

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーを使用すると、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのジョブでネイティブのオペレーティング・システム・コマンドをリモート実行することができます。リモート プロセス・サーバー は、リモート・ホストにインストールする必要があります。

リモート プロセス・サーバー をインストールするには、次の手順を実行します。

1. すべての要件が満たされていることを確認します。
2. インストール・ファイルを取得します。
3. Installation Manager リポジトリ設定または Passport Advantage® アカウント設定を構成します。
4. Installation Manager を使用してリモート プロセス・サーバー をインストールします。
5. リモート プロセス・サーバー を始動します。

第2章 インストール要件

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー をインストールする前に、インストール要件を確認し、ご使用の環境でリソースをセットアップしてください。

現在のシステム要件情報については、IBM 技術サポート・サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/prodguid/v1r0/clarity/softwareReqsForProduct.html>)でソフトウェア製品互換性レポートを参照してください。

また、以下の条件が満たされる必要があります。

- システムに Java 7 がインストール済みで、リモート プロセス・サーバー をインストールおよび実行するユーザーが使用できる状態であること。
- 指定の TCP ポートを使用して、ネットワーク経由でシステムにアクセスできること。ポートが使用可能であること、およびポート競合がないことを確認します。必要に応じて、ファイアウォール設定およびネットワーク設定を調整します。
- リモート プロセス・サーバー をインストールして実行できるだけの十分なアクセス権レベルがユーザーにあること。
- システムに Installation Manager をインストールする必要があります。

Installation Manager がまだシステム上にない場合、インストールを開始すると、自動的にインストールされます。Installation Manager のバージョンが古い場合は、インストールの一環として更新する必要があります。

Installation Manager が自動的にインストールされず、システム上に存在しない場合は、IBM 会社サポート・サイト (<http://www.ibm.com/support>) から Installation Manager 1.9.1 をインストールします。ダウンロードの場所とユーザー情報については、Installation Manager の資料 (<https://www.ibm.com/docs/en/installation-manager>) を参照してください。

重要:

- IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー では、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ 8.4.0 からのリモート実行のみがサポートされています。これより古いバージョンの IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ はサポートされていません。
- IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス Remote Process Server のスレッド・プールのデフォルト・コア・サイズは 16 です。このサイズでは、単一の Remote Process Server で最大 16 個の並行ジョブを実行できます。16 を超える同時進行のジョブは、利用可能なスレッド・プールに空きリソースができるまで、キューで待機しなければなりません。IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス Remote Process Server スレッド・プールのコア・サイズを手動で構成するには、次の JVM オプション (ユーザー定義値を使用) をリモート・プロセス・サーバーの始動スクリプトに追加します。`prms.thread.pool.coresize=<user defined value>`

起動スクリプトについて詳しくは、25 ページの『第7章 リモート・プロセス・サーバーの始動および停止』を参照してください。

第3章 インストール・ファイル

インストールを行う前に、インストール・ファイルを入手する必要があります。

インストール・ファイルを入手するには、以下のいずれかを実行します。

- Passport Advantage サイトからファイルをダウンロードして、ローカル・インストールを実行する: Passport Advantage の ID とパスワードを所有するライセンス付与ユーザーは、Passport Advantage サイトから必要な製品リポジトリをダウンロードできます。
- 稼働中のリポジトリにアクセスして、Web ベースのインストールを実行する: Passport Advantage の ID とパスワードを所有している場合は、Installation Manager を使用して、IBM がホストしているリポジトリから直接製品をインストールできます。

第 4 章 Installation Manager 入門

製品のインストール、更新、またはアンインストールは、IBM Installation Manager をウィザード・モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードで使用して行うことができます。ただし、これらのタスクを実行する前に、IBM Installation Manager リポジトリ設定または Passport Advantage 設定を構成しておく必要があります。

Installation Manager について詳しくは、[IBM Installation Manager の資料](#)を参照してください。

ウィザード・モード

ウィザード・モードでは、Installation Manager をグラフィカル・ユーザー・インターフェースから実行します。

通常は、ご使用のバージョンの Installation Manager と共にインストールされたデフォルトのショートカットを使用して、Installation Manager を開始します。

Installation Manager のインストール場所から、IBMIM アプリケーション・ファイルを実行して、ウィザード・モードで手動で開始できます。

オペレーティング・システムでの IBMIM のデフォルトの場所は、インストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) に応じて異なります。

表 1. IBMIM のデフォルトのインストール場所			
オペレーティング・システム	管理者	非管理者	グループ
Windows XP Professional	C:\Program Files\IBM\Installation Manager	C:\Documents and Settings\user\IBM\Installation Manager\eclipse	なし。
Windows Vista、Windows 2008、Windows 7、Windows 8、および Windows 2012	C:\Program Files [(x86)]\IBM\Installation Manager\eclipse	C:\Users\user\IBM\Installation Manager\eclipse	
Linux® および UNIX	/opt/IBM/InstallationManager/eclipse	/user_home_directory/IBM/InstallationManager/eclipse	/user_home_directory/IBM/InstallationManager_Group/eclipse

コンソール・モード

グラフィック表示デバイスを使用できない場合や、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用せずに Installation Manager を実行する場合は、コンソール・モードを使用します。Installation Manager は、コンソール・モードと呼ばれる ASCII テキスト・ベース・モードでのインストールをサポートしています。コンソール・モードは、Installation Manager に対する対話式のテキスト・ベースのユーザー・インターフェースです。例えば、グラフィカル・ユーザー・インターフェースがない場合のサーバー・サイドでの展開や、リモート・ホストからのインストールの実行に、コンソール・モードを使用します。

コンソール・モードを開始するには、以下の手順を実行します。

1. コマンド行を開きます。
2. tools サブディレクトリーに移動します。
3. オペレーティング・システムに応じて、次のコマンドを実行します。

- Windows の場合: `imcl.exe -c`
- Linux、UNIX、および z/OS®: `./imcl -c`

tools のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムおよびインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) に応じて異なります。詳しくは、Installation Manager の資料を参照してください。

表 2. tools サブディレクトリーのデフォルトのインストール場所			
オペレーティング・システム	管理者	非管理者	グループ
Windows XP Professional	C:\Program Files\IBM\Installation Manager\eclipse\tools	C:\Documents and Settings\user\IBM\Installation Manager\eclipse\tools	
Windows Vista、Windows 2003、Windows 2008、Windows 7、Windows 8、Windows 10、および Windows 2012	C:\Program Files [(x86)] \IBM\Installation Manager\eclipse\tools	C:\Users\user\IBM\Installation Manager\eclipse\tools	
Linux および UNIX	/opt/IBM/InstallationManager/eclipse/tools	/user_home_directory/IBM/InstallationManager/eclipse/tools	/user_home_directory/IBM/InstallationManager_Group/eclipse/tools

サイレント・モード

複数のシステム、または単一のエンタープライズにソフトウェアを展開するには、サイレント・インストールを使用します。サイレント・インストールは、応答ファイルによって定義され、コマンド・ラインまたはバッチ・ファイルから開始します。応答ファイルは、製品配布に付属しています。詳しくは、[18 ページの『応答ファイルを使用したサイレント・インストール』](#)を参照してください。

リポジトリの設定

IBM Installation Manager のリポジトリは、パッケージのインストール、変更、ロールバック、または更新を行うためのデータを保管する場所です。

パッケージのインストール、変更、または更新を行う場合は、事前に管理者または IBM から、インストール・リポジトリの場所を入手してください。

注: インストール・リポジトリに正常にアクセスするためには、リポジトリの場所のパスにアンパーサンド (&) を含めてはなりません。

以下のトピックでは、リポジトリの設定をウィザード・モードおよびコンソール・モードで行う場合の手順について説明します。

ウィザード・モードでのリポジトリ設定の実行

ウィザード・モードを使用して、リポジトリを追加、編集、または削除したり、リポジトリ・テーブル内のリポジトリの順序を変更したりできます。

このタスクについて

リポジトリの資格情報をクリアしたり、リポジトリへの接続をテストしたりすることができます。IBM 製品のインストール・ファイルには、`diskTag.inf` ファイルと `repository.config` ファイルの両方が含まれている場合があります。リポジトリの場所を選択する場合は、`diskTag.inf` ファイルを使用してください。

手順

リポジトリの場所を追加、編集、または削除するには、以下の手順を実行します。

1. IBMIM を使用して、Installation Manager をウィザード・モードで開始します。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。
2. 「ファイル」 > 「設定」 > 「リポジトリ」をクリックします。
「リポジトリ」ページが開き、使用可能なリポジトリ、リポジトリの場所、およびリポジトリの接続状況が表示されます。
3. 「リポジトリの追加」をクリックします。
4. リポジトリの場所を入力するか、または「参照」をクリックします。参照する場合は、リポジトリの場所に移動し、ご使用の環境に応じて `diskTag.inf` ファイル、`repository.config` ファイル、`.zip` ファイル、または `.jar` ファイルを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

HTTPS または制限付き FTP のリポジトリの場所を指定した場合は、ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

新しいリポジトリの場所がリストに追加されます。リポジトリに接続していない場合は、「接続」列に赤色のボックスが表示されます。

6. オプション: 「インストール中および更新中にサービス・リポジトリの検索」を選択します。
Installation Manager は、IBM.com のサービス・リポジトリでインストール済みパッケージの更新を検索します。
7. 「OK」をクリックして、「設定」ページを閉じます。

コンソール・モードでのリポジトリ設定の実行

コンソール・モードを使用して、リポジトリの追加、削除、オープン、移動、またはクローズを行うことができます。

このタスクについて

選択されているオプションは大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。Enter キーを押してデフォルトの項目を選択することも、異なるコマンドを選択することもできます。例えば、[N] は、デフォルトの選択が「N」(Next コマンド)であることを示します。

手順

リポジトリを追加するには、以下の手順を実行します。

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。
2. 「P」(「P: 設定」)を入力します。
3. 「1」(「1: リポジトリ」)を入力します。
4. 「D」(「D: リポジトリの追加」)を入力します。
5. `C:\installation_files\repository.config` などのリポジトリ・ロケーションを入力します。
資格情報を必要とするリポジトリを追加した場合は、必要な資格情報の入力を求めるプロンプトが出されます。

リポジトリの場所を入力する際には、大/小文字を正しく使用してください。大/小文字を正しく使用しないと、インストール対象として選択可能なパッケージのリストにそのパッケージが表示されません。

- a) 「P」 (「P: 資格情報を指定して接続する」) を入力します。
 - b) `user_name` を入力して **Enter** キーを押します。
 - c) `password` を入力して **Enter** キーを押します。
 - d) 「1」 を入力してパスワードを保存します。
 - e) 「0」 (「O: OK」) を入力します。
6. 「A」 (「A: 変更を適用して「設定」メニューに戻る」) を入力します。
 7. 「R」 (「R: メインメニューに戻る」) を入力します。

Passport Advantage の設定

IBM Installation Manager は、Passport Advantage からインストール・パッケージにアクセスできます。Passport Advantage は、IBM ソフトウェア製品を入手するための一元化されたオンライン・ロケーションです。

パッケージのインストール、変更、または更新を行う前に、Passport Advantage の有効な資格情報を取得してください。

以下のトピックでは、Passport Advantage の設定をウィザード・モードおよびコンソール・モードで行う場合の手順について説明します。

ウィザード・モードでの Passport Advantage 設定の実行

ウィザード・モードで、Installation Manager Passport Advantage 設定を行い、Passport Advantage に接続できます。

このタスクについて

重要: Installation Manager のインスタンスを他のユーザーと共有する場合は、[Installation Manager の資料](#)で、管理者、非管理者、またはグループとしてインストールするための情報を参照してください。

手順

Passport Advantage 設定を行うには、以下の手順を実行します。

1. IBMIM を使用して、Installation Manager をウィザード・モードで開始します。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。
2. 「ファイル」 > 「設定」 > 「**Passport Advantage**」をクリックします。
3. 「**Passport Advantage へ接続**」チェック・ボックスを選択して、Passport Advantage リポジトリに接続します。
「パスワードが必要です」ウィンドウが開きます。
4. Passport Advantage のユーザー名とパスワードを入力します。
5. 「パスワードの保存」を選択して、ユーザー名とパスワード資格情報を保存します。
ユーザー名およびパスワード資格情報を保存しない場合は、Passport Advantage にアクセスするたびに、これらの資格情報の入力を求めるプロンプトが出されます。
6. 「OK」をクリックして、「パスワードが必要です」ウィンドウを閉じます。
7. 「OK」をクリックして「設定」ウィンドウを閉じます。

次のタスク

保存されたユーザー名およびパスワード資格情報を削除するには、以下の手順を実行します。

1. 「ファイル」 > 「設定」 > 「**Passport Advantage**」をクリックします。

2. 「資格情報のクリア」をクリックします。
3. 「資格情報のクリアの確認」ウィンドウで、「OK」をクリックします。

コンソール・モードでの Passport Advantage 設定の実行

コンソール・モードで、Installation Manager Passport Advantage 設定を行い、Passport Advantage に接続できます。

手順

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。詳しくは、[7 ページ](#)の『第 4 章 Installation Manager 入門』を参照してください。
2. 「P」 (「P: 設定」) を入力します。
3. 「6」 (「6: Passport Advantage」) を入力します。
4. 「1」 (「1: Passport Advantage へ接続」) を入力します。
選択されているオプションは大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。
5. 「P」 (「P: 資格情報を指定して接続する」) を入力します。
6. Passport Advantage アカウント用のユーザー名を入力します。
7. パスワードを入力します。

ユーザー名およびパスワード資格情報を保存しない場合は、Passport Advantage にアクセスするたびに、これらの資格情報の入力を求めるプロンプトが出されます。

- a) オプション: パスワードを入力した場合は、「1」 (「1: パスワードを保存する (有効な場合)」) を入力します。
8. 「O」 (「O: OK」) を入力して資格情報を保存します。

第 5 章 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーのインストール

ウィザード・モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードでインストールできます。

ウィザード・モードでのインストール

IBM Installation Manager をウィザード・モードで使用して、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーをインストールすることができます。

始める前に

インストールするには、パッケージが含まれているリポジトリに IBM Installation Manager がアクセスできる必要があります。

- IBM Passport Advantage アカウントを所有している場合は、Passport Advantage サイトからパッケージをインストールできます。Passport Advantage リポジトリへの接続について詳しくは、[10 ページの『ウィザード・モードでの Passport Advantage 設定の実行』](#)を参照してください。
- Passport Advantage サイトにないリポジトリからインストールを行う場合は、インストールの前に設定で対象リポジトリを指定しておく必要があります。詳しくは、[8 ページの『ウィザード・モードでのリポジトリ設定の実行』](#)を参照してください。

手順

1. IBMIM を使用して、Installation Manager をウィザード・モードで開始します。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。
2. Installation Manager で、「インストール」をクリックします。
Installation Manager は、使用可能なパッケージの定義済みリポジトリを検索します。使用可能なパッケージが見つからない場合は、リポジトリが正しく指定されていることを確認します。[8 ページの『ウィザード・モードでのリポジトリ設定の実行』](#)を参照してください。
3. Installation Manager の新しいバージョンが検出されると、インストールの確認を求めるプロンプトが出されることがあります。「はい」をクリックして続行します。Installation Manager は、自動的に新しいバージョンのインストール、再始動、および再開を実行します。
4. Installation Manager の「インストール」ページに、Installation Manager が検索したリポジトリで検出されたすべてのパッケージがリストされます。最新バージョンのパッケージのみが表示されます。Installation Manager で検出されたすべてのバージョンのパッケージを表示するには、「すべてのバージョンの表示」を選択します。
パッケージ・バージョンをクリックすると、「詳細」ペインにパッケージの説明が表示されます。パッケージに関する追加情報がある場合は、説明テキストの終わりに「詳細情報」リンクがあります。
Installation Manager をグループ・モードで実行している場合は、グループ・モードでのインストールに対応したパッケージのみをインストールすることができます。グループ・モードでのインストールに対応していないパッケージの場合にはエラーが表示され、そのパッケージのインストールをグループ・モードで続行することはできません。
5. IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー パッケージを選択します。「次へ」をクリックします。
6. 「ライセンス」ページで、選択したパッケージの使用条件を確認します。使用条件に同意した後、「次へ」をクリックして続行します。
7. 「場所」ページで、「共有リソース・ディレクトリー」フィールドに共有リソース・ディレクトリーのパスを入力します。共有リソース・ディレクトリーには、複数のパッケージ・グループが共有できるリソースが含まれています。「次へ」をクリックします。

8. 「場所」 ページで、パッケージのインストール先のパッケージ・グループを選択するか、パッケージ・グループを作成します。

パッケージ・グループは、パッケージが同じグループ内の他のパッケージと共有するリソースを含むディレクトリです。パッケージの初回インストール時に、パッケージ・グループを作成する必要があります。インストールするパッケージを複数個選択する場合は、パッケージの資料を参照して、これらのパッケージが同じパッケージ・グループにインストールできることを確認してください。同じパッケージ・グループにインストールできないパッケージについては、1つのパッケージ・グループに1つのパッケージをインストールします。インストールが完了したら、別のパッケージ・グループに2番目のパッケージをインストールします。

オプション	説明
既存のパッケージ・グループの使用	パッケージのインストール先のパッケージ・グループを選択します。インストールするパッケージと選択したグループとの互換性がない場合は、競合を報告するアラートが出されます。グループに互換性がない場合は、別のグループを選択するか、新規グループを作成します。
新規パッケージ・グループの作成	「参照」をクリックして、パッケージのインストール・ディレクトリを指定します。64 ビット・オペレーティング・システムにインストールする場合は、インストールのアーキテクチャーを32 ビットまたは64 ビットとして選択します。

「次へ」をクリックしてインストールを続行します。

9. 「機能」 ページで、インストールするパッケージ機能を選択します。

- オプション: 機能間の依存関係を表示するには、「**依存関係の表示**」を選択します。
- オプション: 機能をクリックすると、その簡単な説明が「**詳細**」の下に表示されます。
- パッケージ内の機能を選択またはクリアします。Installation Manager は、他の 機能との依存関係を自動的に適用し、インストール用に更新されたダウンロード・サイズおよびディスク・スペースの要件を表示します。

パッケージに選択されているデフォルト機能に戻すには、「**デフォルトの復元**」をクリックします。

10. 「次へ」をクリックしてインストールを続行します。

11. リモート・プロセス・サービスと IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ の相互通信を有効にするための設定情報を指定します。

- 「**サービス情報**」を選択します。
- IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー の名前を指定します。
- 「**サービス listen ポート**」に、作業要求を受け取るローカル・ポート番号を指定します。
- IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー と IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ の間の通信を暗号化するには、「**SSL を使用してサービスに接続**」を選択します。
SSL を有効にするには、インストール後に追加の設定が必要です。詳しくは、[21 ページの『第 6 章 セキュア通信のための SSL』](#)を参照してください。
- 「**基本リポジトリ情報**」を選択します。
- 作業要求を開始するための IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ の接続情報を指定します。

URL には、次の要素が含まれます。

- 接続方式 (プロトコル)。 *http* (Hypertext Transfer Protocol) または *https* (Secure Sockets Layer (SSL) を使用する Hypertext Transfer Protocol) のいずれか
- ホスト・サーバー名または IP アドレス

注: IPv6 アドレスは、[3ffe:2a00:100:7031::1] のように大括弧で囲む必要があります。

- ポート番号。 リポジトリ・サーバーがデフォルトのポート (*http* の場合ポート 80、*https* の場合ポート 443) を使用している場合、ポート番号はオプションです。
- リポジトリ・サーバーのオプションのカスタム・コンテキスト・パス

表 3. URL 指定の例. 以下の表は、サーバー接続用の URL 指定の例をいくつか示しています。				
URL	スキーム	ホスト	ポート	カスタム・パス
http://myserver	HTTP	myserver	デフォルト (80)	(なし)
https://9.30.86.11:443/spss	HTTPS	9.30.86.11	443	spss
http://[3ffe:2a00:100:7031::1]:9080/ibm/cds	HTTP	3ffe:2a00:100:7031::1	9080	ibm/cds

使用しているサーバーにどの URL を用いるべきか分からない場合は、システム管理者に連絡してください。

g) 「次へ」をクリックしてインストールを続行します。

注: ウィザードは、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー の接続を検証しません。システムの正しい情報を入力したことを確認します。情報が正しくない場合、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー のアンインストール、および再インストールが必要になります。

12. パッケージをインストールする前に「要約」ページで選択項目を確認します。

Windows では、Installation Manager が、実行中のプロセスを検査します。プロセスがインストールを妨げている場合、そのプロセスのリストが「ブロッキング・プロセス」セクションに表示されます。インストールを続行するには、このようなプロセスを停止する必要があります。「**ブロッキング・プロセスをすべて停止**」をクリックします。停止する必要があるプロセスが存在しない場合、このリストは表示されません。実行中のプロセスは、Installation Manager によってアクセスまたは変更される必要があるファイルをロックしています。

13. 「インストール」をクリックします。

インストール・プロセスが完了すると、確認メッセージが表示されます。

タスクの結果

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー が、指定したディレクトリーにインストールされます。

次のタスク

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーと IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリー 間の通信を暗号化することを選択する場合、SSL をサポートするように環境を設定します。それ以外の場合は、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー を始動します。

コンソール・モードでのインストール

IBM Installation Manager をコンソール・モードで使用して、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー をインストールすることができます。

始める前に

インストールするには、パッケージが含まれているリポジトリーに Installation Manager がアクセスする必要があります。

- IBM Passport Advantage アカウントを所有している場合は、Passport Advantage サイトからパッケージをインストールできます。Passport Advantage リポジトリーへの接続について詳しくは、[11 ページの『コンソール・モードでの Passport Advantage 設定の実行』](#)を参照してください。

- Passport Advantage サイトにないリポジトリからインストールを行う場合は、インストールの前に設定で対象リポジトリを指定しておく必要があります。詳しくは、[9 ページの『コンソール・モードでのリポジトリ設定の実行』](#)を参照してください。

このタスクについて

選択されているオプションは大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。Enter キーを押してデフォルトの項目を選択することも、異なるコマンドを選択することもできます。例えば、[N] は、デフォルトの選択が「N」(Next コマンド)であることを示します。

一部のオプションには、**[Error]** または **[Incomplete]** というステータスのプレフィックスが付けられている場合があります。このステータスは、該当するオプションに含まれているパラメーターに対して、IBM Installation Manager で現在有効な値が指定されていないことを示します。このステータスが付けられているオプションを選択する場合は、パラメーターに対して値を指定する必要があります。

手順

コンソール・モードでインストールするには、以下の手順を実行します。

1. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。

imcl のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムおよびインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) に応じて異なります。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。

2. 「1」 (「1: インストール - ソフトウェア・パッケージをインストールします」) を入力します。

インストール可能なパッケージがリストされます。

資格情報が必要なリポジトリがあり、その資格情報が保存されていない場合は、資格情報の入力を求めるプロンプトが出されます。

3. 「1」 (「1: [] package_name」) を入力します。

パッケージを選択するには、パッケージの横にある番号を入力します。この例では、リスト内の最初のパッケージを選択しています。選択したパッケージにおいて Installation Manager の新しいバージョンが必要な場合は、その新しいバージョンをインストールすることを求めるプロンプトが出されます。

4. 「選択」画面で、インストールするパッケージの横にある番号を入力します。

- **1:** インストールするバージョン *package_version* を選択してください。このオプションは、インストール対象として選択されていないパッケージを選択した場合に表示されます。

インストール対象として選択されているパッケージを選択した場合は、オプション「**1**」 (「1: バージョン *package_version* をインストールしないでください」) が表示されます。

- **2:** パッケージの使用可能なバージョンをすべて表示します。

5. オプション: 「0」 (「0: 他のバージョン、フィックス、および拡張機能の確認」) を入力します。

Installation Manager は、使用可能なリポジトリを調べて、選択したパッケージの他のバージョン、フィックス、または拡張機能を検索します。

- インストール済みパッケージのデフォルトのリポジトリを Installation Manager に検索させるには、設定「インストール中および更新中にサービス・リポジトリの検索」を選択する必要があります。この設定は、デフォルトで選択されています。この設定にアクセスするには、「リポジトリ」設定ページに移動します。

- 通常は、インターネット・アクセスが必要です。

- 「他のバージョン、フィックス、および拡張機能の確認」オプションでは、見つかった他のバージョン、フィックスまたは拡張機能の数が示されますが、見つかった項目のリストは表示されません。使用可能なバージョンを表示するには、パッケージの横にある番号を入力してから、「**2**」 (「2: パッケージの使用可能なバージョンをすべて表示します」) を入力してください。

6. 「N」 (「N: 次へ」) を入力します。

7. 「ライセンス」画面のオプションは次のとおりです。

- **1: product_name** - ご使用条件。使用条件を確認するには、製品名の横にある番号を入力します。
この例では、リスト内の最初の使用条件を選択しています。
 - **A:** ☐ 使用条件の条項に同意します。
 - **D:** ☐ 使用条件の条項に同意しません。使用条件に同意しない場合、インストールは停止します。
インストールを続行するには、使用条件に同意する必要があります。
- a) 「A」を入力して、使用条件に同意します。
- b) 「N」 (「N: 次へ」) を入力します。
8. 共有リソース・ディレクトリーに別の値を入力するには、「M」 (「M: 共有リソース・ディレクトリー」) を入力します。共有リソース・ディレクトリーのデフォルト値を受け入れるか、または別の値を入力してから続行するには、「N」 (「N: 次へ」) を入力します。
- 重要:** 共有リソース・ディレクトリーを指定できるのは、パッケージの初回インストール時のみです。今後のパッケージの共有リソース用に十分なスペースを確保できるよう、十分な使用可能スペースがあるドライブを選択してください。すべてのパッケージをアンインストールしない限り、共有リソース・ディレクトリーの場所を変更することはできません。
9. オプション: パッケージ・グループの場所に別の値を入力するには、「M」 (「M: ロケーションの変更」) を入力します。デフォルト値を受け入れるか、または別の値を入力してから続行するには、「N」 (「N: 次へ」) を入力します。
- パッケージ・グループは、パッケージが同じグループ内の他のパッケージと共有するリソースを含むディレクトリーです。パッケージの初回インストール時に、パッケージ・グループを作成する必要があります。インストールするパッケージを複数個選択する場合は、パッケージの資料を参照して、それらのパッケージが同じパッケージ・グループにインストールできることを確認してください。同じパッケージ・グループにインストールできないパッケージについては、1つのパッケージ・グループに1つのパッケージをインストールします。インストールが完了したら、別のパッケージ・グループに2番目のパッケージをインストールします。
10. インストール対象の機能のリストで機能を追加または削除するには、機能の横にある番号を入力します。「N」 (「N: 次へ」) を入力します。
- 製品に使用可能な機能がない場合、この画面は表示されません。
11. 「一般設定 (Common configuration)」ページで、「1」を入力してリモート・プロセス・サービスの設定情報を指定します。
12. リモート・プロセス・サービスの構成設定を入力します。
- a) オプション: 「1」を入力して、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーと IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリー 間の通信を SSL を使用して暗号化するようにします。
このオプションを選択をしている場合、「1」を入力すると、選択解除できます。
- b) 「2」を入力して、リモート・プロセス・サービス名を指定します。
- c) 「3」を入力して、リモート・プロセス・サービス処理要求を受け取るためのローカル・ポート番号を指定します。
13. 「N」 (「N: 次へ」) を入力します。
14. 基本 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリー の構成設定を入力します。
- a) 「1」を入力して、リポジトリー・サーバーの URL を指定します。
- URL には、次の要素が含まれます。
- 接続方式 (プロトコル)。http (Hypertext Transfer Protocol) または https (Secure Sockets Layer (SSL) を使用する Hypertext Transfer Protocol) のいずれか
 - ホスト・サーバー名または IP アドレス
- 注: IPv6 アドレスは、[3ffe:2a00:100:7031::1] のように大括弧で囲む必要があります。
- ポート番号。リポジトリー・サーバーがデフォルトのポート (http の場合ポート 80、https の場合ポート 443) を使用している場合、ポート番号はオプションです。

- ・リポジトリ・サーバーのオプションのカスタム・コンテキスト・パス

表 4. URL 指定の例. 以下の表は、サーバー接続用の URL 指定の例をいくつか示しています。

URL	スキーム	ホスト	ポート	カスタム・パス
http://myserver	HTTP	myserver	デフォルト (80)	(なし)
https://9.30.86.11:443/spss	HTTPS	9.30.86.11	443	spss
http://[3ffe:2a00:100:7031::1]:9080/ibm/cds	HTTP	3ffe:2a00:100:7031::1	9080	ibm/cds

使用しているサーバーにどの URL を用いるべきか分からない場合は、システム管理者に連絡してください。

- b) 「2」を入力して、リポジトリ・サーバーへの接続で使用するユーザー名を指定します。
 - c) 「3」を入力して、リポジトリ・サーバーへの接続で使用するパスワードを指定します。
15. 「N」 (「N: 次へ」) を入力します。
16. パッケージをインストールする前に、「要約」画面で選択した項目を確認します。

オプション: 応答ファイルを生成するには、「G」 (「G: インストール応答ファイルの生成」) を入力します。応答ファイルの名前を入力します。ファイル拡張子には .xml を使用します。応答ファイルは、XML ファイルです。応答ファイル名を入力する際にディレクトリーの場所を含めることにより、そのファイルを別の場所に保存することができます。

- 17. 「I」 (「I: インストール」) を入力します。
- 18. インストールが完了したら、「F」 (「F: 終了」) を入力します。

タスクの結果

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー が、指定したディレクトリーの場所にインストールされます。

次のタスク

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーと IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ の間の通信を暗号化することを選択する場合、SSL をサポートするように環境を設定します。それ以外の場合は、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー を始動します。

応答ファイルを使用したサイレント・インストール

応答ファイルを使用してサイレント・モードでインストールできます。

始める前に

インストール・パッケージに付属している応答ファイル `SilentInstallOptions` を見つけます。

手順

imcl コマンドを実行します。

- Windows: `imcl.exe input response_file -log log_file`
- Linux および UNIX: `./imcl input response_file -log log_file`

18 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー: インストール手順

imcl のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムおよびインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) に応じて異なります。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。

タスクの結果

インストールが完了すると、ステータス 0 が返されます。インストールが完了できなかった場合は、ゼロ以外の数字が返されます。

ログ・ファイルが使用可能です。詳しくは、Installation Manager の資料を参照してください。

例

表 5. オペレーティング・システム別のインストール・コマンド	
オペレーティング・システム	コマンド
Windows	<code>imcl.exe input c:\response_files\install.xml -log c:\mylog\install_log.xml -acceptLicense</code>
Linux、UNIX	<code>./imcl input /response_files/install.xml -log /mylog/install_log.xml -acceptLicense</code>

スペースを含むファイル・パスは、二重引用符で囲みます。

第 6 章 セキュア通信のための SSL

Secure Sockets Layer (SSL) は、2 台のコンピューター間で転送されるデータを暗号化するためのプロトコルです。SSL を使用することにより、コンピューター間の通信を保護することができます。

SSL は、サーバーの ID を公開鍵にバインドする公開鍵証明書のほか、サーバーの公開鍵と秘密鍵に依存します。

1. クライアントがサーバーに接続する際、クライアントは公開鍵証明書を使用してサーバーを認証します。
2. 次に、クライアントは乱数を生成し、サーバーの公開鍵によってその数値を暗号化して、暗号化されたメッセージをサーバーに返送します。
3. サーバーは、サーバーの秘密鍵を使用して乱数を復号します。
4. サーバーとクライアントの両方が、この乱数を使用して、後続の情報の暗号化と復号に使用されるセッション鍵を作成します。

公開鍵証明書は、通常、認証局によって署名されます。VeriSign や Thawte などの認証局は、公開鍵証明書に含まれるセキュリティ資格情報の発行、認証、管理を行う組織です。サーバーの ID の確認は、原則として認証局が行います。通常、認証局は証明書に課金しますが、自己署名証明書を生成することもできます。

鍵ストアおよびトラストストアには、SSL で使用される鍵および証明書が格納されます。鍵ストアは、サーバーの秘密鍵を格納するファイルです。サーバーは、鍵ストアからクライアントに証明書として ID 情報を提示します。一方、トラストストアは、信頼済みサーバーからの証明書を格納するファイルです。サーバーが鍵ストアから公開鍵証明書を送信すると、サーバー ID を検証するために、その証明書とトラストストア内の対応する証明書を照合します。2 つの証明書が一致したら、サーバーへの接続が有効になります。鍵および証明書のセキュリティを保持するために、鍵ストア・ファイルとトラストストア・ファイルをパスワードで保護します。

22 ページの図 1 は、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー と IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリ の間の通信の SSL 暗号化の一般的なアーキテクチャーを示しています。

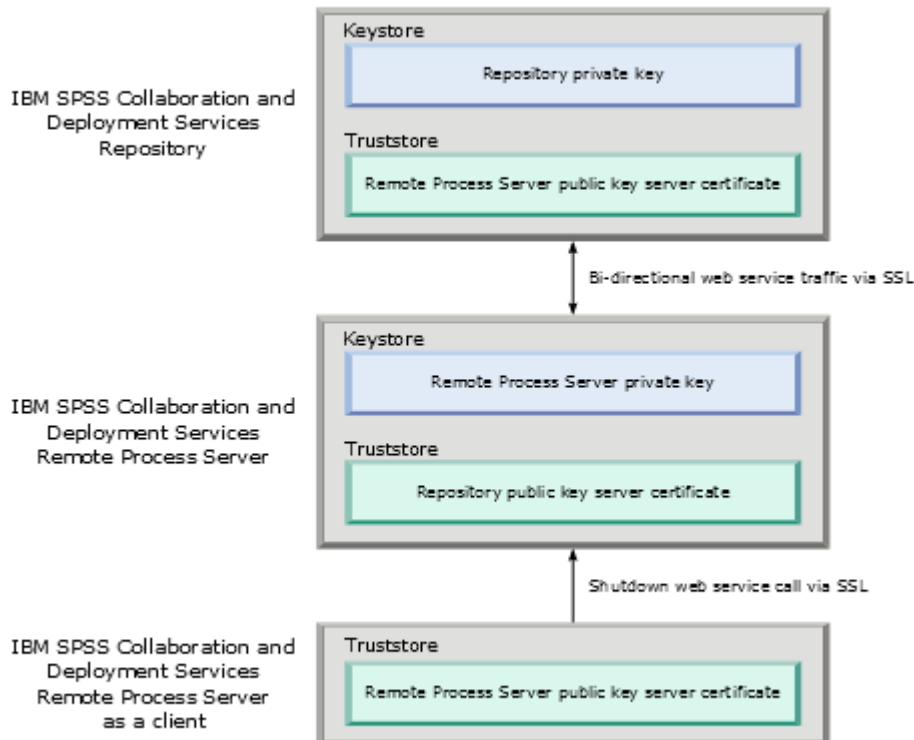


図 1. IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーの SSL アーキテクチャー

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリでは、鍵ストアにリポジトリ・サーバーの秘密鍵が格納されます。トラストストアには、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーの公開鍵サーバー証明書が格納されます。リポジトリ・サーバーがリモート・プロセス・サーバーに接続するとき、リモート・プロセス・サーバーから送信される証明書が、この証明書と照合され検証されます。

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーでは、鍵ストアにリモート・プロセス・サーバーの秘密鍵が格納されます。トラストストアには、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリの公開鍵サーバー証明書が格納されます。リモート・プロセス・サーバーがリポジトリ・サーバーに接続するとき、リポジトリ・サーバーから送信される証明書が、この証明書と照合され検証されます。

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーをシャットダウンすると、個別の JVM がサーバーに接続し、コマンドを発行します。このコマンドを許可するには、リモート・プロセス・サーバーのトラストストアに IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーの公開鍵サーバー証明書も格納する必要があります。

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーを設定するとき、鍵ストアとトラストストアの両方として単一ファイルを使用できます。この場合、秘密鍵と信頼証明書が単一のパスワード保護ファイルと一緒に格納されます。

SSL の設定

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー通信で使用する SSL の設定では、公開鍵サーバー証明書を適切なトラストストア・ファイルへインポートします。

このタスクについて

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー に対し SSL を設定する際には、秘密鍵および公開鍵のサーバー証明書を保管するために以下のオプションを使用できます。

- 秘密鍵および公開鍵のサーバー証明書を単一ファイルに格納して、鍵ストアとトラストストアの両方として機能するようにする。
- 秘密鍵を鍵ストア・ファイルに、公開鍵サーバー証明書をトラストストア・ファイルにそれぞれ格納する。

オプションの指定方法は、サーバーの実行時に使用する構成により異なります。詳しくは、[25 ページの『第 7 章 リモート・プロセス・サーバーの始動および停止』](#)を参照してください。

鍵ストア・ファイルおよびトラストストア・ファイルの操作には、公開鍵サーバー証明書のエクスポートおよびインポート用に設計されたツールを使用できます。この例では、Java **keytool** ユーティリティーを使用してプロセスを示します。**keytool** の詳しい資料については、ご使用のバージョンの Java の資料を参照してください。

手順

1. リモート・プロセス・サーバー用の鍵ストアを作成し、そこに公開鍵と秘密鍵のペアを生成します。
次の例では、Java **keytool** ユーティリティーを使用して、`mystore.jks` という名前の鍵ストアを現行ディレクトリーに作成します。この鍵ストアには、秘密鍵および自己署名公開鍵証明書を含む `rps` として参照される項目が含まれます。

```
keytool -keystore mystore.jks -genkeypair -alias rps
```

コマンドを実行すると、ユーティリティーから、鍵ストアのパスワードを定義するよう求めるプロンプトが出されます。値を指定した後、鍵に必要な情報を入力します。この情報には、サーバー共通名 (CN)、組織単位名 (OU)、会社名 (O)、市区町村名 (L)、都道府県名 (ST)、および国名 (C) が含まれます。

重要: 鍵の生成に使用するツールから、氏名を指定するよう要求された場合は、氏名の代わりにリモート・プロセス・サーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。

2. リモート・プロセス・サーバーの公開鍵サーバー証明書を鍵ストアからエクスポートします。
以下の例では、**keytool** の `exportcert` コマンドを使用して、`mystore.jks` 鍵ストアからパスワードが `mypwd` の `rps.cert` 証明書ファイルを作成します。

```
keytool -exportcert -file rps.cert -keystore mystore.jks -storepass mypwd -alias rps
```

3. リモート・プロセス・サーバーのトラストストアを作成し、リモート・プロセス・サーバーの公開鍵サーバー証明書をインポートします。
以下の例では、トラストストア `rpstrust.jks` を作成し、証明書 `rps.cert` をインポートします。

```
keytool -importcert -file rps.cert -keystore rpstrust.jks -storepass mypwd -alias rpscert
```

証明書がインポートされると、Entry type: `trustedCertEntry` エントリーが作成されます。これは、生成された秘密鍵 (Entry type: `PrivateKeyEntry`) とは異なります。

ファイル管理を簡素化するために、ステップ [23 ページの『1』](#) で作成した鍵ストアをトラストストアとして使用できます。

4. IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリをホストしているアプリケーション・サーバーに鍵ストアおよびトラストストアがない場合は、ご使用のアプリケーション・サーバーで利用できるツールを使用してストアの作成物を作成します。
詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。
5. ご使用のアプリケーション・サーバーで利用できるツールを使用して、リモート・プロセス・サーバーの公開鍵サーバー証明書をリポジトリ・サーバーのトラストストアにインポートします。
詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

6. ご使用のアプリケーション・サーバーで利用できるツールを使用して、リポジトリ・サーバーの鍵ストアからリポジトリ・サーバーの公開鍵サーバー証明書をエクスポートします。
詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。
7. リポジトリ・サーバーの公開鍵サーバー証明書をリモート・プロセス・サーバーのトラストストアにインポートします。
以下の例では、証明書 `repository.cert` をトラストストア `rpstrust.jks` にインポートします。

```
keytool -importcert -file repository.cert -keystore rpstrust.jks -storepass mypwd -alias repositorycert
```

ファイル管理を簡素化するために、ステップ [23 ページの『1』](#) で作成した鍵ストアをトラストストアとして使用できます。

タスクの結果

これで、リポジトリ・サーバーのトラストストアに、リモート・プロセス・サーバーの公開鍵サーバー証明書が格納されました。 リモート・プロセス・サーバーのトラストストアには、リポジトリ・サーバーおよびリモート・プロセス・サーバーの公開鍵サーバー証明書が格納されました。

次のタスク

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー を始動します。

第7章 リモート・プロセス・サーバーの始動および停止

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー がターゲット・ホスト・システムにインストールされたら、始動する必要があります。

<installation directory>/bin ディレクトリーには、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーを開始および停止するためのスクリプトが含まれています。

リモート・プロセス・サーバーの始動

サーバーを始動するには、以下のコマンドを実行します。

- Windows:

```
startserver.bat
```

- UNIX および Linux

```
startserver.sh
```

SSL を使用するセキュア接続を有効にするには、始動コマンドにパラメーターを追加します。次の例では、`kstore` および `tstore` は、インストール環境の `config` フォルダーに格納される鍵ストア・ファイルおよびトラストストア・ファイルです。これらのファイルのパスワードは `mypwd` です。これらの引数をシステムに対応する値に置換します。

- Windows:

```
startserver.bat "-Djavax.net.ssl.keyStore=../config/kstore" "-Djavax.net.ssl.keyStorePassword=mypwd" "-Djavax.net.ssl.trustStore=../config/tstore" "-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=mypwd"
```

- UNIX および Linux

```
startserver.sh "-Djavax.net.ssl.keyStore=../config/kstore" "-Djavax.net.ssl.keyStorePassword=mypwd" "-Djavax.net.ssl.trustStore=../config/tstore" "-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=mypwd"
```

鍵ストアとトラストストアの両方として単一ファイルを使用する場合、`javax.net.ssl.keyStore` パラメーターと `javax.net.ssl.trustStore` パラメーターの両方に対してそのファイルの絶対パスを指定します。

接続の確立に関する問題が発生した場合、値に `ssl:handshake:trustmanager` を指定した `javax.net.debug` パラメーターを、サーバー始動時のコマンドに含めることで SSL ハンドシェイクをデバッグできます。

```
startserver.bat "-Djavax.net.ssl.keyStore=../config/kstore" "-Djavax.net.ssl.keyStorePassword=mypwd" "-Djavax.net.ssl.trustStore=../config/tstore" "-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=mypwd" "-Djavax.net.debug=ssl:handshake:trustmanager"
```

出力を確認して、問題を特定し、問題を解決したら、始動コマンドからこのパラメーターを削除して、以後デバッグ・メッセージが表示されないようにします。

注: リモート・プロセス・サーバーは、リポジトリ・サーバーへの接続を定期的に検証します。接続が成功すると、リモート・プロセス・サーバーは着信接続を受け入れます。リポジトリ・サーバー接続を確立できない場合は、リポジトリ接続が成功するまで、リモート・プロセス・サーバーは着信接続の受け入れを停止します。このため、リポジトリ・サーバーが停止すると、リモート・プロセス・サーバーは、リポジトリ・サーバーが使用可能になるまで、要求の処理を中断します。

リモート・プロセス・サーバーの停止

リモート・プロセス・サーバーを停止するには、以下のコマンドを実行します。

- Windows:

```
shutdown.bat
```

- UNIX および Linux

```
shutdown.sh
```

SSL を使用するリモート・プロセス・サーバーを停止するには、シャットダウン・コマンドにパラメーターを追加します。

- Windows:

```
shutdown.bat "-Djavax.net.ssl.keyStore=../config/kstore" "-  
Djavax.net.ssl.keyStorePassword=mypwd"  
"-Djavax.net.ssl.trustStore=../config/tstore" "-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=mypwd"
```

- UNIX および Linux

```
shutdown.sh "-Djavax.net.ssl.keyStore=../config/kstore" "-  
Djavax.net.ssl.keyStorePassword=mypwd"  
"-Djavax.net.ssl.trustStore=../config/tstore" "-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=mypwd"
```

また、コマンド・ラインから Ctrl + C キーを使用して Java プロセスに停止信号を送信することで、リモート・プロセス・サーバーを実行しているサーバーを停止することもできます。

ロギング

<installation directory>/log/server.log ログ・ファイルを調べることにより、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーが実行されていることを確認できます。

ヒント: <installation directory>/config/log4j2.xml ファイルを変更することにより、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーのロギングをカスタマイズできます。詳しくは、リポジトリ・サーバーの資料を参照してください。

次の作業

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー が正しく動作していることを確認するには、IBM SPSS デプロイメント・マネージャー を使用して一般ジョブ・ステップを含むジョブを設定し、インストールした IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー 上でそのジョブを実行します。詳しくは、「IBM SPSS デプロイメント・マネージャー ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

第 8 章 IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー に対するアクセス権限の構成

デフォルトでは、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー に関連付けられている IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリにアクセスできるユーザーは、リモート・プロセス・サーバーにもタスクを送信できるようになります。リモート・プロセス・サーバーへのアクセスを制限するために、アクセス権が付与されているセキュリティ・プロバイダー・グループと照合してユーザーを検証するようにサーバーを設定できます。

始める前に

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー タスクを実行できるユーザーのためのグループを、セキュリティ・プロバイダーに作成します。必要に応じて、ユーザーをこのグループに割り当てます。詳しくは、セキュリティ・プロバイダーの資料を参照してください。

制約事項: 拡張グループへのアクセスは制限できません。

このタスクについて

制限されたグループのアクセスに対応するように IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー を設定している場合に、サーバーがタスクを受信すると、サーバーは、このタスクに関連付けられた資格情報を保持するすべてのセキュリティ・プロバイダー・グループを要求します。そのリストに、サーバーの設定で許可されたグループが含まれる場合、送信されたタスクは受け入れられることになります。リストに、許可されたグループが含まれない場合、このタスクは拒否されます。

`<installation directory>/config/spssservice.xml` ファイルには、グループ・アクセスを構成するための設定が含まれています。特に、サーバー定義には、サーバーにアクセスできるグループの名前を指定するためのグループ名プロパティを含める必要があります。サーバー定義にこのプロパティが含まれない場合、制限されたグループのアクセスは無効になります。

手順

1. IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー を停止します。
2. テキスト・エディターで `spssservice.xml` ファイルを開きます。
3. **ns1:managedServer** 要素に、グループ名を定義する子 **ns1:propertyValue** 要素を追加します。
プロパティには以下の特性が必要です。
 - **ns1:name** 属性の値に `groupName` を指定
 - **ns1:typeCode** 属性の値に `string` を指定
 - 子 **ns1:value** 要素の値に、リモート・プロセス・サーバーへのアクセス権を持つグループの名前に対応する値を指定

以下の例では、`rps_access` グループのグループ名プロパティを定義しています。

```
<ns1:propertyValue ns1:typeCode="string" ns1:name="groupName">
  <ns1:value>rps_access</ns1:value>
</ns1:propertyValue>
```

4. ファイルを保存してテキスト・エディターを閉じます。

タスクの結果

spssservice.xml ファイルには、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーにアクセスできるセキュリティー・グループを定義するプロパティーが含まれています。このグループのユーザーは、サーバーにタスクを正常に送信できます。このグループに所属していないユーザーは、別のリモート・プロセス・サーバーにタスクを送信しなければなりません。

次のタスク

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー を始動します。

第 9 章 接続資格情報の変更

必要に応じて、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリに接続するために IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーが使用する資格情報を変更できます。

始める前に

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーを停止します。

このタスクについて

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーのインストール時に、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリに接続するための資格情報を定義します。これらの資格情報がある時点で無効になった場合、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーの設定情報を更新する必要があります。例えば、セキュリティ・ポリシーに従いリポジトリ・サーバーの資格情報のパスワードに変更が生じた場合、リモート・プロセス・サーバーが使用するパスワードを更新する必要があります。

<installation directory>/config/spssservice.xml ファイルには、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリサーバーに接続するための設定が含まれています。具体的には、次の例で示すように、この資格情報は **ns1:spssService** 要素の **ns1:username** 属性および **ns1:password** 属性で指定します。

```
<ns1:spssService ns1:enabled="true" ns1:ssl="false"
ns1:password="[abd919f50b414290583effc832a5a9ab04]"
ns1:username="admin" ns1:port="8080" ns1:host="cdsserver" xmlns:ns1="http://xml.spss.com/cop">
```

手順

1. テキスト・エディターで spssservice.xml ファイルを開きます。
2. **ns1:spssService** 要素の **ns1:username** 属性の値を新しいログイン名に変更します。
3. **ns1:spssService** 要素の **ns1:password** 属性の値を、平文の新しいパスワードに変更します。
IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーを再始動すると、サーバーは自動的にこのファイル内のパスワード値を暗号化されたバージョンに更新します。
4. ファイルを保存してテキスト・エディターを閉じます。

タスクの結果

spssservice.xml ファイルには、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・リポジトリサーバーに接続するための更新された資格情報が含まれています。

次のタスク

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーを始動します。

第 10 章 アンインストール IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー

ウィザード・モードまたはコンソール・モードでアンインストールできます。

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー のインストールに使用したアカウントと同じ特権を持つユーザー・アカウントでログオンする必要があります。

重要: IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー プログラム・ディレクトリーの一部のファイル(プログラム・データなど)は、IBM Installation Manager では削除できません。IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー のすべてのファイルをシステムから完全に削除するには、IBM Installation Manager でアンインストールした後、プログラム・ディレクトリーを手動で削除する必要があります。

ウィザード・モードを使用したアンインストール

IBM Installation Manager をウィザード・モードで使用して、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー をアンインストールできます。

始める前に

アンインストールするパッケージをインストールするのに使用したアカウントと同じ権限を持つユーザー・アカウントでログオンする必要があります。

手順

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. IBMIM を使用して、Installation Manager をウィザード・モードで開始します。

IBMIM のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムおよびインストール・タイプ(管理者、非管理者、またはグループ)に応じて異なります。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。

3. Installation Manager で、「アンインストール」をクリックします。
4. 「アンインストール」ウィザードで、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー パッケージを選択します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「要約」ページで、選択内容を確認します。選択内容を変更する場合は、「戻る」をクリックします。選択内容に問題がなければ、「アンインストール」をクリックします。

Windows では、Installation Manager が、実行中のプロセスを検査します。プロセスがアンインストール・プロセスを妨げている場合は、そのプロセスのリストが「ブロッキング・プロセス」セクションに表示されます。アンインストール・プロセスを続行する前に、このようなプロセスを停止する必要があります。「**ブロッキング・プロセスをすべて停止**」をクリックします。停止する必要があるプロセスが存在しない場合、このリストは表示されません。実行中のプロセスは、Installation Manager によってアクセスまたは変更される必要があるファイルをロックしています。

7. アンインストール・プロセスが終了すると、「完了」ページが開き、アンインストール・プロセスが確認されます。

コンソール・モードを使用したアンインストール

IBM Installation Manager をコンソール・モードで使用して、IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー をアンインストールできます。

始める前に

パッケージをインストールするのに使用したアカウントと同じ特権を持つユーザー・アカウントでログオンする必要があります。

このタスクについて

選択されているオプションは大括弧で囲まれた X ([X]) で示されます。選択されていないオプションは、空の大括弧 ([]) で示されます。 **Enter** キーを押してデフォルトの項目を選択することも、異なるコマンドを選択することもできます。例えば、[N] は、デフォルトの選択が「**N**」(**N**ext コマンド)であることを示します。

手順

IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. Installation Manager を使用してインストールしたプログラムを閉じます。
2. `imcl -c` を使用して、コンソール・モードで Installation Manager を開始します。
imcl のデフォルトの場所は、オペレーティング・システムおよびインストール・タイプ (管理者、非管理者、またはグループ) に応じて異なります。詳しくは、[7 ページの『第 4 章 Installation Manager 入門』](#)を参照してください。
3. 「5」 (「5: アンインストール - インストール済みソフトウェア・パッケージを削除します」) を入力します。
4. IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー のパッケージ・グループを選択するには、パッケージ・グループの横にある番号を入力します。
5. 「N」 (「N: 次へ」) を入力して続行します。
6. パッケージを選択するには、パッケージの横にある番号を入力します。
オプション: すべてのパッケージをアンインストール対象として選択するには、「A」 (「A: パッケージをすべて選択します」) を選択します。「**A**」 (「A: パッケージの選択をすべて解除します」) オプションは、アンインストール対象としてすべてのパッケージが選択されている場合に表示されます。
7. アンインストールする前に、「要約」パネルで選択内容を確認します。「U」 (「U: アンインストール」) を入力します。
8. アンインストール・プロセスが完了したら、「F」 (「F: 終了」) を入力します。

第 11 章 推奨されない機能

前のリリースの IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス からマイグレーションする場合、最後のバージョン以降に非推奨になった各種機能について注意してください。

ある機能が非推奨になった場合、IBM 会社 は、製品の今後のリリースでその機能を除去する可能性があります。将来は、推奨されるマイグレーション・アクションにリストされている戦略的機能に投資の重点が置かれます。通常、フィーチャーは、同等の代替機能が提供されない限り非推奨とはなりません。

このリリースで非推奨となったフィーチャーはありません。参照用に、製品の最近のバージョンで非推奨となったフィーチャーを以下の表に示します。この表には、可能であれば、推奨されるマイグレーション・アクションも示されます。

表 6. 以前のバージョンの非推奨になった機能	
非推奨	推奨されるマイグレーション・アクション
セキュリティ・プロバイダー: 拡張グループおよび許可ユーザーをサポートする、ローカル・オーバーライドを使用する Active Directory	標準の Active Directory セキュリティ・プロバイダーに必要なグループを追加して使用してください
IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのエンタープライズ・ビュー	分析データ・ビュー機能を使用
IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのエンタープライズ・ビュー・ドライバー	分析データ・ビュー機能を使用
シナリオ・ファイル	シナリオ・ファイル (.scn) はサポートされなくなりました。エンタープライズ・ビューのソース・ノードはデプロイメント・マネージャーで変更できません。古いシナリオ・ファイルは、IBM スポス モデラークライアントで変更し、ストリーム・ファイルとして再度保存することができます。また、シナリオ・ファイルを使用するスコアリング構成は削除し、ストリーム・ファイルに基づいて再作成する必要があります。
IBM SPSS デプロイメント・マネージャーの Web インストール	スタンドアロン・インストーラーを使用
BIRT・レポート・デザイ用の IBM スポス	なし
BIRT・レポート・デザイ用の IBM スポスビューアー	なし
IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・ポートレット	IBM SPSS コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・デプロイメント・ポータルを直接使用するか、または Web サービス API を使用してください
IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービス ウェブ パーツ	IBM SPSS コラボレーションおよびデプロイメント・サービス・デプロイメント・ポータルを直接使用するか、または Web サービス API を使用してください
スコアリング・サービス V1 API	スコアリング・サービス V2 API
サーバー・サービスのスケジューリング	なし
レポート・サービス	なし

表 6. 以前のバージョンの非推奨になった機能 (続き)	
非推奨	推奨されるマイグレーション・アクション
認証サービス login 操作	認証サービス doLogin 操作
検索サービス search 操作	検索サービス search2.5 操作
SPSS AXIS/Castor Web サービス・クライアント jar	Java ランタイム環境、統合開発環境、または Eclipse Web Tools Platform (WTP) に付属のツールを使用してください
clemrtl_setLogFile() API 関数	なし

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

IBM は、このドキュメントで説明されている製品、サービス、または機能を、他の国では提供していない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

US-->

For license inquiries regarding double-byte (DBCS) information, contact the IBM Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

<!--Intellectual Property Licensing

<!-- Legal and Intellectual Property Law -->

日本 アイ・ビー・エム株式会社

103-8510

Tokyo 103-8510, Japan-->

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

US-->

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM はこれらの製品をテストしていないため、IBM 以外の製品に関連するパフォーマンス、互換性、またはその他のクレームの正確性を確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向性および指針に関する記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie などの各種テクノロジーの使用について詳しくは、『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメントのハイライト』（<http://www.ibm.com/privacy/jp/ja/>）、『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』というタイトルのセクション、および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』（<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>）を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。世界中の多くの国で登録されています。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。
なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- アンインストール
 - インストール・ウィザードの使用 [31](#)
 - コンソール・モードの使用 [31, 32](#)
 - IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー [31, 32](#)
- インストール
 - インストール・ウィザードの使用 [13](#)
 - コンソール・モードの使用 [13, 15](#)
 - サイレント・モードの使用 [13](#)
 - IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー [1, 13](#)
- ウィザード・モード
 - アンインストール [31](#)
 - インストール [13](#)

[カ行]

- 開始
 - IBM Installation Manager [7](#)
 - IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー [25](#)
- 鍵ストア [22](#)
- 鍵ツール [22](#)
- グループ・アクセス
 - IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバーについて [27](#)
- 更新の検索
 - コンソール・モード [9](#)
- コンソール・モード
 - アンインストール [31, 32](#)
 - インストール [13, 15](#)
 - リポジトリ [9](#)
 - Passport Advantage [11](#)

[サ行]

- サイレント・モード (silent mode)
 - インストール [13, 18](#)
- 資格情報
 - Passport Advantage [10](#)
- 設定
 - リポジトリ [9](#)
 - Passport Advantage [10, 11](#)
 - repository [8](#)
- 前提条件 [3](#)

[タ行]

- 停止
 - IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー [25](#)
- トラストストア [22](#)

[ナ行]

- 認証済みリポジトリ [8](#)

[ハ行]

- パスワード
 - 更新 [29](#)
- パッケージ
 - コンソール・モードでのインストール [15](#)

[ラ行]

- ログイン
 - IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー [25](#)

I

- IBM Installation Manager [1, 3, 7](#)
- IBM Passport Advantage
 - 設定の実行 [10](#)
- IBM スポス コラボレーションおよびデプロイメント・サービスのリモート・プロセス・サーバー
 - アンインストール [1, 31, 32](#)
 - インストール [1, 13](#)
 - 開始 [25](#)
 - グループ・アクセス [27](#)
 - 停止 [25](#)
 - ネットワーク・ポート [3](#)
 - リモート プロセス・サーバー [3](#)
 - ログイン [25](#)
- Installation Manager [1, 3, 7](#)

J

- Java 1.6 [3](#)

R

- repository
 - 接続のテスト [8](#)
 - 設定での指定 [9](#)
 - 設定の実行 [8](#)
 - リポジトリの場所の削除 [8, 9](#)
 - リポジトリの場所の追加 [8, 9](#)
 - リポジトリの場所の編集 [8, 9](#)

S

- SSL
 - 設定 [22](#)

